

土城に於ける馬賊襲撃事件の追想

中江署章與駐在所 小林忠治

貴會より國境の異聞に就て投稿せよとの事であります、

何分原稿締切迄に期日がないので、現在に於ける國境警備の
状況は後日に發表する事として、今回は土城事件を追想して
左に述べる事に致します。

時は昭和九年一月二十二日午後十一時二十分、反滿匪首王
殿陽及九州の率ゐる馬匪賦大刀會混合隊百數十名は當土城駐
在所々在地に侵入、放火掠奪殺傷を敢行せるを當所員七名は
直ちに賊と銃火を交へ、激戦約一時間にして賊一名を殲し、
四名に重傷を負せ之を激退す。

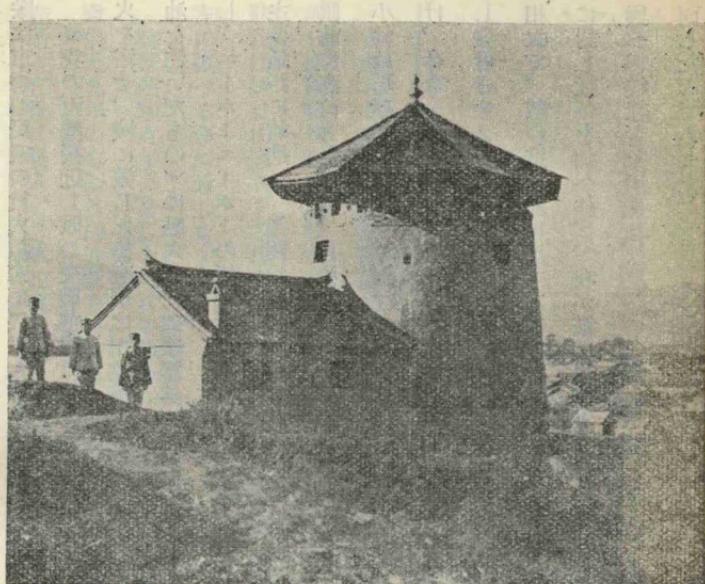
駐在所に於て設置した土城洞東端に張込警戒中の自衛團員

二名は、午後十一時二十分白馬浪の急カ
ーブから鴨綠江水上を渡涉して来る二三
名の怪しい黒影を認め、大聲支那語にて
數回誰何したがなんらの應答もないのみ
ならず、次第に多數人馬の足音を耳にし
たので馬賊來襲と直感し、土城駐在所に
當時立哨警戒中の松本巡査はこの急報に接すると共に直ち
に江岸に駆けつけたが、その時既に馬賊の集團部隊は駐在所
所在地東端入口の鳴綠江に殺到し、部落めがけて猛射を開始
したので事態が急迫したのを知り、豫て規定されてゐた急報
信號として長銃二發を發射すると共に、駐在所内見張中の田
巡査は急を首席に告げたので、伐洞巡視の爲出發用意をしつ
ゝあつた小林部長は、折柄在所中の所員四名に非常召集を行
ひ所員全部事務室に集合(この間約三分)と同時に、小林は倉
庫にあつた機關銃及實包一千發を取出して所員に分配し、間
髪を入れず賊を擊滅すべく輕機を携帶、駐在所直前主要道路

及所に出了時賊は早くも三隊に分れ、一隊三十名は江岸地點に位置し市街侵入部隊の後方擁護の任に備へ、一隊五十餘名は交戦部隊として駐在所周圍に殺到し、殘餘五十餘名の一隊は市街地民家の放火掠奪に任じた。

彼我の距離接近し賊の交戦部隊は忽ち我に向つて猛烈な銃火を浴せ、機に乗じた掠奪班は用意携帶した放火具（綿に石油を注いだもの）に點火し、破壊器具や青龍刀や長槍を振翳し、エーホーエーホーの掛け聲を發して長銃拳銃を發射しつゝ主要道路に前進し、道路兩側の民家に侵入、放火掠奪殺傷を眼前に恣にしたので、見張臺に上つて駐在所員を指揮してた小林は勇猛果敢に之を撃滅すべく賊の先頭部隊に機關銃を向け、命令一下を待つてゐた松本巡查外五名射方始めの號令をし發射させようとしたが、いかにすべき被害地部民の避難者相次で、賊の進路前に出て右往左往し散らばつてゐるので賊に對し猛撃を加へれば、我が銃弾に依り多數の良民に被害を與へ、犠牲者を出さねばならず、實に言語に絶する危機に直面したのであつた。

機に乘じた頭目王殿陽及九州は馬上で青龍刀を振翳し部下に進軍喇叭を吹奏させながら衆を持んで頑強に抵抗し亂射猛撃更に前進し、もし躊躇すれば所員全滅、部落全滅の餘儀なき状態に陥るので已むなく機關銃及所員を駐在所構内に引揚げ防備の位置に所員を配置し機關銃を發射させたが六十數發の發射で機關銃は不幸にも故障を生じ使用不可能になつたので、已むなく所員を激勵しながら長銃で連射を浴せた。この時賊の交戦部隊は駐在所柵外數十間の周圍に殺到し駐在所を牽制蹂躪しようとし、又一方市内は賊の爲に放火され瞬く間もなく火の海と化し、避難民の脅鳴、賊の喊聲、賊對當所員の猛烈な交戦は實に言語に絶する場景を現出したのであつた。事態は危險寸時の間隙も許さない状態であるのを看取した小林は、事務室内に飛込み、本署に電話で「土城は三百名の馬賊の來襲を受け目下全滅に瀕す至急應援を頼む」と第二報を掛けたと、時間の猶豫がない場合心は不思議に落着いたのであつた。更に自宅に飛込み前から有事の場合使用する爲に用意してあつた「ダイナマイト」十六發を取出して雷管と導火線



(樓) 哨 兵 防 防 防 防 防 防 防 防

譽の爲」所員全部死を決し、機を見て賊の主力部隊に向け獅子奮迅に積極的突撃に出た。爲に賊はこの状勢に辟易し光頭部隊は遂に退却を開始した。又一方駐在所の後方から構内に殺到しようとした賊三十名に對しては、遊動防備に當りつゝあつた木庭高木兩巡查が猛烈なる射撃を浴せ、約十分で賊一名を射殺撃退したのであつた。

こゝに至つた彼等の戦闘状況は漸く我に有利に展開したので賊の陣營に動搖の兆が生じ、この状勢を見て取つた賊の頭目は信號警笛を吹いて退却命令をした爲、賊は死體一、不發に終つた爆弾二個、槍、破壊器具、實包三百發、其他多數の遺留品を放棄して四名の重傷者を擁し、進入當初の経路に向つて迅速機敏な退却を開始したので、我等所員は機を逸せず之が追撃に出で、被害地現場直對岸白馬浪迄至つたが、此時市街地の火災が猛烈で漸次延焼の虞れがあるので一應追撃を中止し、地元の鎮火に努めると共に賊の逆襲に備へたのである。前記の様に此の間約一時間であつたが又十分間とも或は十時間とも思はれたのであつた。

に手早く裝置し、これを持つて出て駐在所の北方十メートル附近に殺到した賊の主力部隊めがけて投擲すると共に賊のひるむに乘じ、所員を激励、「陛下の警察官として國境警備の名